



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク
あったかウェルねっとニュース 第27号

2017年9月6日発行

ホームページアドレス <http://www.geocities.jp/attaka17/>

2011年3月11日の東日本大震災より6年半が経ちました。失われた多くの尊い命のご冥福を祈り続けるとともに、一日も早い被災地の復興・復旧を願い、被災された皆様の安心安全を心よりお祈り申し上げます。

あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

全国の高校生と共に

8月9～10日、高校生ボランティア・アワード2017をさいたまスーパーアリーナで開催するのに合わせ、県内社会福祉団体を支援し、全国の高校生ボランティア団体と世代間交流を図るため、「風に立つライオン基金チャリティフェア」が同時開催されました。県内社会福祉団体用の出展ブーススペースが設けられ、あったかウェルねっともブース参加しました。全国から選ばれた101校の高校生や関係者らと交流し、情報交換しました。

**高校生ボランティア・アワード2017
初参加しました！～ブース出展～**

水出智津&盲導犬アニー（さいたま市）

この二日間のイベントで、「世代間交流」と言う目的をしっかり果たすために、私は沢山の高校生とお話をしました。その中でもっとも印象的だったのは、点字の絵本を作って盲学校に届ける活動をしている都内の高校生が、子供のころから点字を使って生活をしている私との出会いを喜んでくれて、見えない人の生活にも関心を持ってくれたこと。短い時間でしたが、楽しく伝え合いました。

もう一つ、授産施設で働いている人たちと、和紙を使って絵馬を作っている奈良県の高校生は、絵



馬を作る時のみんなの幸せを願う気持ちの部分まで、伝え方に心がこもっていて、お話に引き込まれました。

高校生から大人に、大人から高校生に、それぞれがお互いの活動に目を向け、耳を傾け、とても素晴らしいイベントでした。

お知らせ

福祉教育・ボランティア「まなびばしゃべりばカフェ」は、自由な発想での学びを推進員が中心になって企画しています。推進員のみでなく誰もが楽しく出会える場です。

秋カフェを行ないます

まなびばしゃべりば秋カフェ2017

「地域で共に生きる」

～福祉教育との出会い・こんなふうに地域で生きています～

ゲストスピーカー 長岡 保氏（鶴ヶ島市・鶴ヶ島視覚障害者の会「アイネット」会長）

開催日：平成 29年10月17日(火)

時間：13時30分～15時30分

会場：ウエスタ川越2階 活動室5

事前の申込み
をお願いします

(川越駅西口 徒歩約7分)

参加費：200円

内容：お話とグループワーク等

申込み：ねっと事務局 須田 049-283-1865 (FAX)

メールアドレス masako@niconico39.net

「若者のつどい」を応援!

事前の申込み
をお願いします

昨年8月に発足した若者への福祉研究会では、若者を中心とした「わかふく青年部」がイベントを開催します。是非、ご参加をお願いします。

「おいでませ、福祉」～福祉の多様性に出会う～

開催日：平成 29年9月24日(日曜)

時間：13時30分～16時30分

会場：ウエスタ川越3階 研修室2・3
(川越駅西口 徒歩約7分)

参加費：無料 定員：60名

内容：若者が語る「福祉」の魅力とは?
(福祉と関わって、“わたし”が受けた影響
と人生の変化を伝える。)

①発表②ワークショップ③コーヒーブレイク

申込みは、上記のねっと事務局でも受け付けます。

報告①

まなびばしゃべりば夏カフェ2017

実践プログラムの導入の工夫
～つかみはOK?!～

7月1日(土)13時30分からウエスタ川越(活動室4)にて夏カフェを開催。参加者は28名。

5月の研修会に続き、河村美穂氏(埼玉大学教授)を講師に迎え、具体的なプログラムの組み方を一から学びました。

授業の組み立てを考えると、ひとまとまりの単元のうち中心となる本時(ほんじ)は、導入《つかむ》・展開《ふかめる》・まとめ《まとめる》で成り立っている。導入部の「つかみ」は重要。また、プログラムのストーリーを自分自身がドキド

キワクワクできるかも大事とのこと。

続いてのグループワークでは、用意された4事例のうちからひとつを選び、7グループそれぞれがプログラムの展開を考えながら「つかみ」を工夫し合った。心にとまる素材をいっぱい用意したり、道筋がひとつでなくいくつかあるような素材を提供する、そして、ゆらぎ悩み続けていく。

つかみはインパクトが肝心、など「つかみ」に焦点を当てて、導入部分について事例を基に分かりやすく学び合いました。

報告② ～新事業～

**障害当事者等のスキルアップ研修
(全2回)**

～福祉教育実践者のスキルアップを目指して～

福祉教育推進員のスキルアップをめざし、今年度から、あったかウエルねっと主催の研修会を企画しました。ウエスタ川越にて、8月21日(月)、30日(水)の2日間コースで行ないました。

障害当事者・ボランティア・社協職員・医療福祉関係・教員・学生など参加者は延べ119名。ほかにも、要約筆記ボランティア、保育ボランティアの協力者、託児利用の幼児、参加者と同席の幼児・小学生など、多様であたたかな会場でした。

第1回 「ふれあいの詩基金助成事業」

<午前の部> 講義「福祉教育概論」

～期待される福祉教育の意義と役割～

講師：原田正樹氏(日本福祉大学教授)

★「ふくしの意味すること」

◇ふつうの生活を営むことは基本的な人権

★「福祉教育と教育福祉」

◇福祉の価値を学ぶことが、子どもの成長の糧になる。(共に生きる力を育む=福祉教育)

◇教育権と生存権の諸問題(間に子どもの貧困等)

★「障害の有無を問わず、同じ人間である」

◇知らないから偏見が生まれる(知り方や関わり方)

★「社会的孤立から地域共生社会の実現へ」

◇様々な孤立から、生きがいを共に創り高め合う。

◇全ての地域住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを創る。

★ストレングス・ICFの視点を導入した福祉教育

◇その人の出来る事＝可能性を広げていく

◇ひとりひとり違う人間、みんなみんな同じ人間。

★サービスラーニング導入のねらい

◇子どもたちが福祉を学ぶ場を地域社会に広げる

◇地域貢献活動を通して市民性（生活課題解決力）を育む＝地域社会の一員として自分のできる事へ



第1回＜午後の部＞及び第2回＜午前・午後＞

演習「福祉教育実践者として大切なもの」

「福祉教育実践者として大切にしたい視点とは」
講師：鈴木信行氏（患医ねっと代表、日本二分脊椎症協会元会長、他）

■研修の目的『自らの経験を活かし、学校や地域で講演活動ができるスキルを体得』



■研修の目標『自分の講演を地域の中学校でできるようにする』

★講演の組み立て方 ①「自己紹介とは？」◇興味を持たせる◇講演に必要な情報を出す◇聴講者との共通点があるとよい ②「メインメッセージとは？」◇聴講者に何を伝えたいか？◇一文で表せるくらいが良い◇依頼者の意図や目的を確認する◇聴講者が何を聞きたいのか（例：力強く生きる勇気を持ってほしい等）③「3つの話題（ネタ/動作/小まとめ）とは？」◇メインメッセージを補完して強く印象付ける話題で、自分の経験や意見や体験からの人生観（＝ナラティブ）

★話し方のコツ ①「テンポよく！」◇話題に、

一つは聴講者の動作を入れる◇話題ごとにネタを完成させる◇②「動作とは？」◇聴講者に考えさせ、自分事にする動きのこと◇より深い意識を持たせる③「小まとめとは？」◇ネタとメインメッセージを繋げる◇ネタの意味をより理解させる（例：麻酔から覚めた時の妻の心配そうな顔は、生きていることの素晴らしさを感じさせた）

★自分の講演を作ろう《演習》①個人シート記入 ②自分の講演発表会/グループワーク③フィードバック/個人シート記入&グループ情報交換会

等々、障害当事者等の福祉教育実践者として求められる役割や視点など、深い学びを共有しあった充実した2日間の研修でした。

講師の先生方に厚く御礼申し上げます。

若福研究会コーナー

☆第6回研究会開催

報告

【精神保健実践プログラム】報告会

若者への福祉教育研修会で、上記報告会が坂戸駅前集会施設にて開催されました。参加者30名。

日時：6月25日（日）14時00分～16時30分
共同研究者：松本すみ子氏（東京国際大学教授）

岡田隆志氏（埼玉県春日部保健所
精神保健福祉士）

はじめに、アドバイザー松本すみ子氏によるミニ講座で、「精神障害がある方をとりまく状況」について学びあい、次に、埼玉県フットサル「カンピオーネ」スタッフでもある岡田隆志氏からの「精神障害者フットサル&研究の概略案」説明後、両氏による「精神障害者フットサルにおける福祉教育」についての研究報告がありました。

後半はグループワークでの意見交換から今後に向けての課題を出し合い、目的を共有しあう報告会になりました。



☆研究会終了後、若福研「わかもの青年部」発足！

若者のつどい「おいでませ、福祉」を企画中。
2ページのお知らせを参照してください。

☆第7回研究会開催のお知らせ

【大学実践プログラム】第2弾報告会

お知らせ

日時：10月26日（木曜）13時30分～

場所：ウェスタ川越3階 研修室4

（川越駅西口 徒歩約7分）

アドバイザー：河村美穂氏（埼玉大学教授）

報告者：川田虎男氏「大学でのサービスマーケティング」

申込先は、ねっと事務局須田（右記に記載）

☆あったかウェルねっと報告会は、11月を予定しています。詳細が決まり次第、ホームページやメーリングリストでお知らせして行きます。

県社協からの情報

県社協では、高校生のボランティア活動を応援していくために、「ヤングボランティア交流会」を実施します。今年度4回目を迎える本交流会は、7校32名の高校生からなる企画委員会を設置し、交流会の内容を検討しています。今年度は、“つながりづくり”と“情報交換”に重きをおき、冬に交流会を開催する予定です。今後、企画委員会を重ね、交流会の内容を具体化していきます。



また、1月開催予定の「共生・共助つながりづくりフォーラム」では、民生委員制度100周年記念及び「広がれ、こども食堂の輪！全国ツアーin埼玉」として開催します。記念講演や地域の支え合いの取組、子ども食堂に関する分科会などを予定しています。詳細が決まり次第ご案内しますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

事務局情報

会員希望の方はねっと事務局まで

総会報告にあるように、規約の変更により入会の条件が変わりました。条件に該当する方で、会員希望の方はねっと事務局までお知らせください。

ねっと事務局 須田 049-283-1865 (FAX)

メールアドレス：masako@niconico39.net

若者への福祉教育研究会の情報も

・若者への福祉教育研究会HP

<http://wakafukuken.wixsite.com/saitama>

・フェイスブックのグループページ

<https://www.facebook.com/wakafukuken>

報告会や研究会が順次行なわれます。関心のある方ならどなたでも。参加申込みをお待ちしています。

メーリングリストで情報を

「あったかウェルねっとML」「若者への福祉教育研究会ML」と、二つのメーリングリストが動いています。会員・賛助会員の方でメールアドレス（携帯も可）をお持ちの場合、メーリングリストの登録ができます。希望する方は事務局までお知らせください。

会費振込先のお知らせ

活動は、ねっと会費（年1000円）で運営しています。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

振込先：埼玉りそな銀行武蔵浦和支店・

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

編集後記

ねっと主催のスキルアップ研修が無事に終了。今年度から始めた取り組みですが、県内各地からの申込みが想定以上で嬉しい悲鳴でした。ご協力頂いたすべての皆さまに感謝申し上げます。

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員
ネットワーク（通称：あったかウェルねっと）

編集：あったかウェルねっと（情報担当）

連絡先：埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課

TEL：048-822-1435

FAX：048-822-3078

Mail：vc@fukushi-saitama.or.jp